

■ 日本学生支援機構の奨学金結果通知について

高校3年生でおもに6月に申し込んだと思われる者の予約採用の結果通知が今月になって日本学生支援機構から送られてきました。大学、短大、専門学校等の入学手続きの際、結果通知の内容に沿って手続きをしないと正式に申し込んだことにはなりませんので注意してください。申し込んで結果通知も受け取ったけれども利用しないという場合には、特にそのまま何もしなければ申し込んだことにはなりませんので、キャンセル手続きなどは不要です。なお、結果内容については、家族構成や各ご家庭の収入の状況等を日本学生支援機構側が総合的に判断して下されたものですので、学校側ではご質問を受けてもご対応いたし兼ねますのでご了承ください。



7月で申し込んだ生徒については、12月中には結果通知が届くものと思われます。ただし、6月に申し込んだ生徒も含めて、提出書類に不備があり、何らかの書類の再送などを求められたりした場合には、審査に時間がかかる場合がありますので、もう少しお待ちください。あまりにも結果通知が届かない場合には、お早めに学校にお問合せください。

■ 受験報告書の提出を

多くの高校3年生は、11月までに大学の入学試験や企業の入社試験を終わらせていると思いますが、受験が終わったら、速やかに「受験報告書」を提出するようお願いします。高校3年生のみなさんの中にも、進路指導室に「過去の受験報告書を確認したい」ということで足を運んで確認した人は多いかと思います。詳しく書かれていた資料についてはとても役に立ったはずですが、したがって、記憶が新しいうちに少しでも詳しくまとめてもらえれば幸いです。

高校3年生のみなさんが特に注目して確認しているのが、面接での質問内容です。多くは、志望動機、高校生活の思い出、高校時代に頑張ったこと、どのような学生生活を送って将来どのような道に進みたいか(※進学の場合)、どのような社員を目指したいか(※就職の場合)、最近気になるニュースは何か・・・といった質問事項になるようですが、他ではあまり質問されていないことが「受験報告書」に書かれていると生徒は食いつき、参考になるようです。面接については、面接官が何人かとか、個別面接か集団面接かなども気になるポイントですし、小論文のテーマや文字数などもチェック項目になります。できるだけ詳しく報告してください。

■ 3 年生の合格体験記

3 年生の合格体験記。今回は東洋大学に合格した小野寺 澪さん（3 年 3 組）です。近年、社会的評価が高まっていて、受験生からも日東駒専（日本大学・東洋大学・駒澤大学・専修大学）の中で最も支持されていると言われる東洋大学合格に向けてどのように準備を進めたかなど、1・2 年生のみなさんもぜひ参考にしてみてください。

【合格体験記】 小野寺 澪さん（3 年 3 組）
東洋大学国際観光学部国際観光学科合格
（AO 型推薦入試）

私は東洋大学国際観光学部国際観光学科に AO 型推薦入試で合格することができました。

大学選択にあたり、学習内容やキャンパスの雰囲気、立地など個人的に確認することを決めた上で複数の大学のオープンキャンパスや体験授業に参加しました。私は以前から観光学に興味を持っていたものの、具体的にどんな職業に就きたいのかが決まっていなかったため、観光に関する多くの分野を学べる東洋大学を選びました。



入試に向けて多くの先生方にご協力いただき、志望理由書、課題レポートの作成と小論文、プレゼン・質疑応答の練習を行いました。これらと並行し、観光に関する知識を増やす必要があったため、通学時間などを利用し観光関連のニュースや記事を読むようにしていました。7 月から準備を進め、本当に不安でしたが、自分なりに自信をつけて入試に臨みました。しかし、当日は周囲のレベルの高さに圧倒されてしまいました。今振り返ってみると、その状況下でも案外落ち着いて受験できたのは日々の練習の積み重ねがあったおかげだったと感じています。

私がこの受験を通して学んだことは、授業外活動での経験の重要性です。AO 型推薦入試では、大学に対する想いを自身の知識・経験と併せて説明しなければなりません。そのため、自分の今までの取り組みについて、大学入学後や大学卒業後の目標とつながりを持たせることが大切だと感じました。後輩の皆さんの中にも、自分が今やっている活動に意味を見出せないと思っている人もいるのではないかと思います。私もそうでした。しかし、入試の準備を進めていくうちに、私は探究活動と部活動での経験が確実に活かしたとを感じる場面がありました。

（裏面に続きます）

一方で、各種検定試験について、もっと頑張っていたら良かったという後悔もしました。このように、高校生活での行いは進路に直結すると思います。受験校に関わらず、AO 型推薦入試という形態での受験を考えている人は特に色々な活動に積極的に取り組んでほしいです。私も大学でも様々なことに挑戦し、成長できるように頑張ります。

■教育実習生からのメッセージ

10 月 27 日（月）から 5 名の教育実習生が本校で 2 週間ないし 3 週間の実習をしていきました。全員には書いていただけセンでしたが、一部の実習生に書いていただきましたので 2 回に分けて掲載します。参考にしてみてください。

教育実習の感想

菅野竜太郎先生（国立音楽大学音楽学部演奏・創作学科）

教育実習に伺う前は、授業がスムーズにできるか、生徒とうまくコミュニケーションをとれるかとても不安でしたが、実際に始まって生徒の元気で明るい姿を見て不安がほとんどなくなりました。

私は普段、音楽の専門の勉強をしているため、鑑賞するオーケストラ作品の見どころや楽曲にある背景など面白いと思うポイントは見つけやすいのですが、オーケストラを聞かない生徒たちにとっては、なぜそこが面白いのか、それにどういう意味があるのかわからないというギャップがあり、どうしたらわかりやすく興味をもってもらえるか工夫する点が大きな課題でした。しかし同時に、「テレビ番組にこの楽曲が使用されているんだ」とか「こういう仕組みだからこうなんだ」と生徒に説明した時に、生徒が理解して明るくなる瞬間がとてもやりがいを感じる時間でした。



様々な先生方の授業を見学させていただいて、声の使い方や生徒とのコミュニケーションの取り方などとても多く勉強させていただきました。将来、私は大学を卒業したらまた別の大学で音楽と楽器について学び、最終的にはオーケストラのチューバ奏者の仕事に就くことを目指して勉強しています。しかし、オーケストラのチューバ奏者になることは簡単ではありません。チューバ奏者はオーケストラに 1 人だけしか在籍せず、団員になるためのオーディションは 7～8 年に 1 回あるかどうかです。さらに、やっとチューバ奏者のポジションが空いてもそのオーディションには 100 人近い人が受けるので必ず入団できるとは限らないのです。それほど難しい夢でも私が音楽を続けてきたのは、「将来、絶対にオーケストラで演奏したい」という信念があるからで、初めてプロになりたいと思った中学 2 年生頃からずっと突き進んできました。

読んでいる生徒の皆さんが、もし将来やりたいことがあるのであれば信念を持ってよそ見せずに努力してみてください。最後になりますが、ご指導いただいた先生方や生徒の皆さん、3 週間お世話になりました。

■ ドジャース世界ー！！ 田中将大投手日米通算 200 勝達成！！

すでにみなさん知っている話で、少し古い話題という印象もぬぐえませんが、アメリカ大リーグでロサンゼルス・ドジャースが球団初となる2年連続世界ーを達成しました。ワールドシリーズにおいて3勝を挙げ、日本人としては松井秀喜さん（当時ニューヨーク・ヤンキース）以来2人目のMVPに輝いた山本由伸投手をはじめ、日本人3選手の活躍が特に目立っていたように思われます。



山本投手については、ワールドシリーズ第2戦で完投勝利を収め、移動日を挟んで本拠地ドジャースタジアムでの第3戦で試合がもつれ18回まで進み、ピッチャーがいない状態になり、中1日という状況のなか、ブルペンで準備を進めていたことがチームメートの心を動かしたようです。最終の第7戦に至っては、前日の第6戦で6回まで登板しての中0日で連投しての勝利でした。山本投手もプロに入ってから初の連投ということでしたが、「こういう大事な試合で投げられるようプロに入ってから練習を続けてきた」と話しており印象に残りました。

シーズン後半は不調の時期もあった大谷選手でしたが、ポストシーズンに入ってからは大活躍でした。本塁打を3本放った試合もありましたし、ワールドシリーズ第3戦では、本塁打2本を含む4打数4安打で、その後4打席連続敬遠、最後は敬遠気味の四球と9打席9出塁という漫画のような活躍でした。その試合は18回裏にフリーマン選手がサヨナラホームランを放ち見事に勝利を収めました。

第7戦は先発した大谷選手が3ラン本塁打を打たれて先制される苦しい展開でしたが、9回表に9番バッターのロハス選手が同点の本塁打を放ち、分からない展開になりました。これも1番バッターに大谷選手が控えていて、勝負を避けるために9番バッターのロハス選手と勝負に行ってストライクを投げてしまったという見方をしていた解説者がいました。ここからも大谷選手の存在の大きさがうかがえます。大谷選手は優勝パレードの日、ドジャースタジアムでファンに向かって「来年もチャンピオンリングを獲得できる準備はできている」と話し、球場を沸かせました。少し気が早いですが、来年はどのような活躍が見られるか楽しみです。

さて、野球の話題をもう1つ。昨年度の本紙第10号で取り上げた読売巨人軍の田中将大投手が見事、今年のシーズン最終戦で日米通算200勝を達成しました。今シーズンも苦しい試合が続き、2軍で調整というケースも多くありましたが、シーズン後半は勝利につながらなくても試合を何とかつakって降板することが多くなり、阿部慎之助監督が最後まで信じて使い続けました。その結果、もたらされた勲章だったと言えるでしょう。若い頃とは異なり、ストレートの速度が落ちたことで打者にとっては変化球との見分けがしやすくなり、打たれてしまうことが多かったようですが、何とか乗り越えました。



「田中投手が最後の200勝投手になるのではないか」とも言われています。幼なじみの坂本勇人選手らの支えもあり達成できた偉業でした。

文責：進路指導部 清水聖